地域自立支援協議会を「成果」に変える戦略的ネットワーク構築

単なる「出席」から「実効的な地域連携・事業所運営への反映」へのトランスフォーメーション

福祉事業所の管理者・連携担当・経営層向け
実践プレイブック



NotebookLM

協議会への参加が「単なる情報収集」で終わっていませんか？



参加前・参加中

何を得るかが未設定のまま参加し、発言機会を活かせず「情報交換」だけで終わる。



参加後

持ち帰った有益な情報が社内展開されず、担当者の中に埋もれる（属人化）。



評価

連携成果が見えないため、参加の意義が問われ、正当に評価されない。

「現場で起きやすい課題」を放置すると、機会損失（逸失利益）を生み続けます。

NotebookLM

参画の成果は、持ち帰った情報の「実装力」で決まる

［旧パラダイム］
会議に出席することが目的



座して話を聞くだけ。
事業所の変化はゼロ。

［新パラダイム］
事業所運営への実装が目的



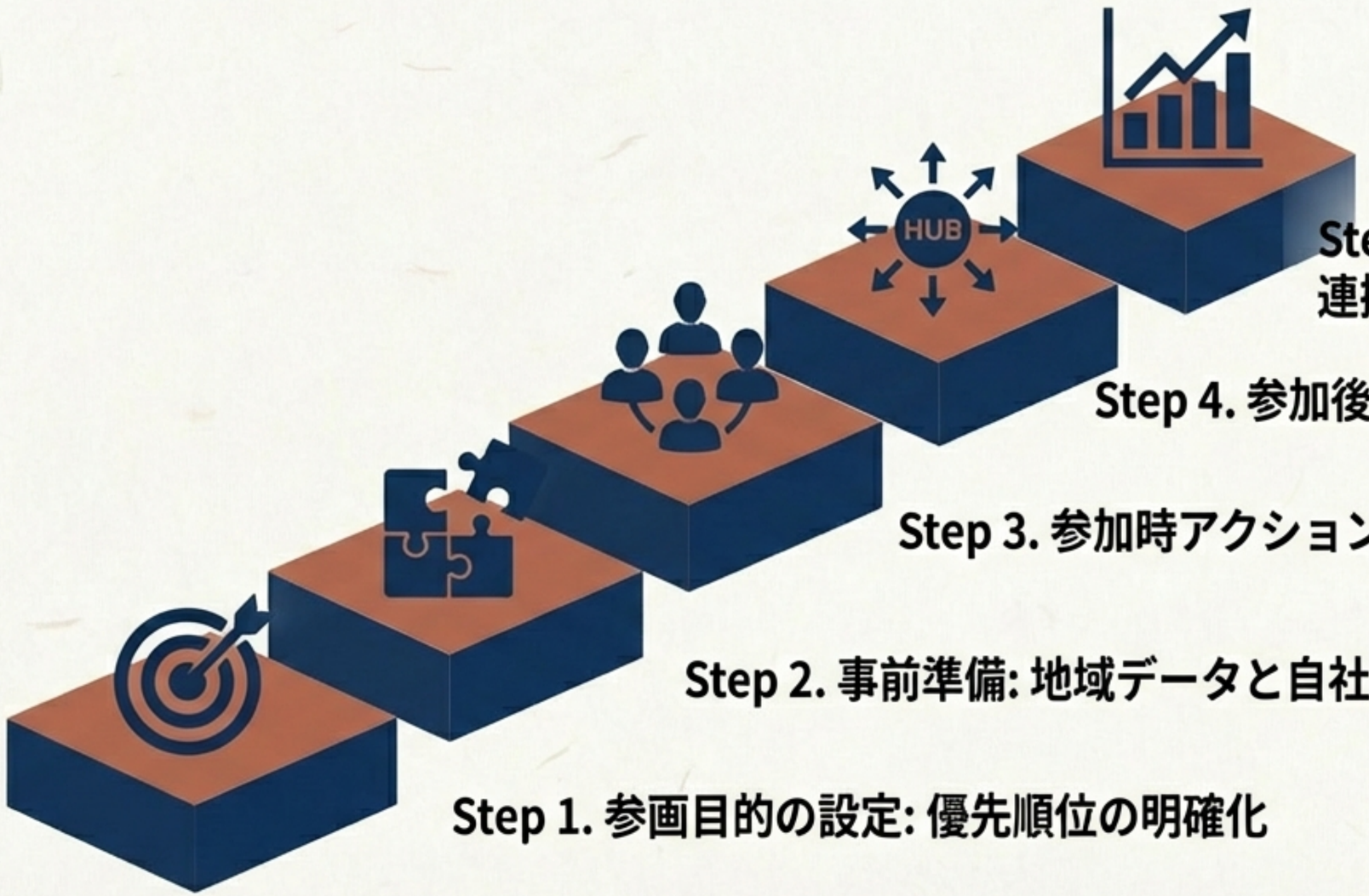
持ち帰った地域課題や制度
情報を、日々の実務や支援
体制へへ反映させる。

参加そのものではなく、参加後に「どう活かすか」の仕組み化が、
実効的なネットワーク構築の鍵です。

NotebookLM

地域連携を実効化するための5つの戦略的実装フロー

各ステップをシステムとして回すことで、初めて
「成果」が生まれます。



Step 5. 反映評価:
連携状況と支援改善のトラッキング

Step 4. 参加後共有: 属人化の排除と社内アサイン

Step 3. 参加時アクション: 議題提案と関係構築

Step 2. 事前準備: 地域データと自社課題の統合

Step 1. 参画目的の設定: 優先順位の明確化

NotebookLM

Step 1: 何を得るか？参画目的を明確にし、優先順位をつける

協議会で得られる情報は膨大です。自事業所の現状に合わせて、注力すべき目的を設定します。

【目的A】
地域課題の把握



地域の潜在的なニーズや、他事業所が抱える課題の収集。

【目的B】
連携先の開拓



新たな紹介導線の確保や、不足している支援リソースを補う関係構築。

【目的C】
制度情報の収集



法令改定や行政の動向など、経営に直結するマクロ情報の獲得。

NotebookLM

Step 2: 武器を持たずに会議へ行かないための「事前準備」

発言力は準備で決まります。「聞くだけの参加者」から脱却するための要素を整理します。

地域データの把握

行政が公開する統計や、
前回の議事録の確認。





事業所課題のすり合わせ

現場スタッフからのヒアリング
を通じた、自社が直面している
壁の言語化。

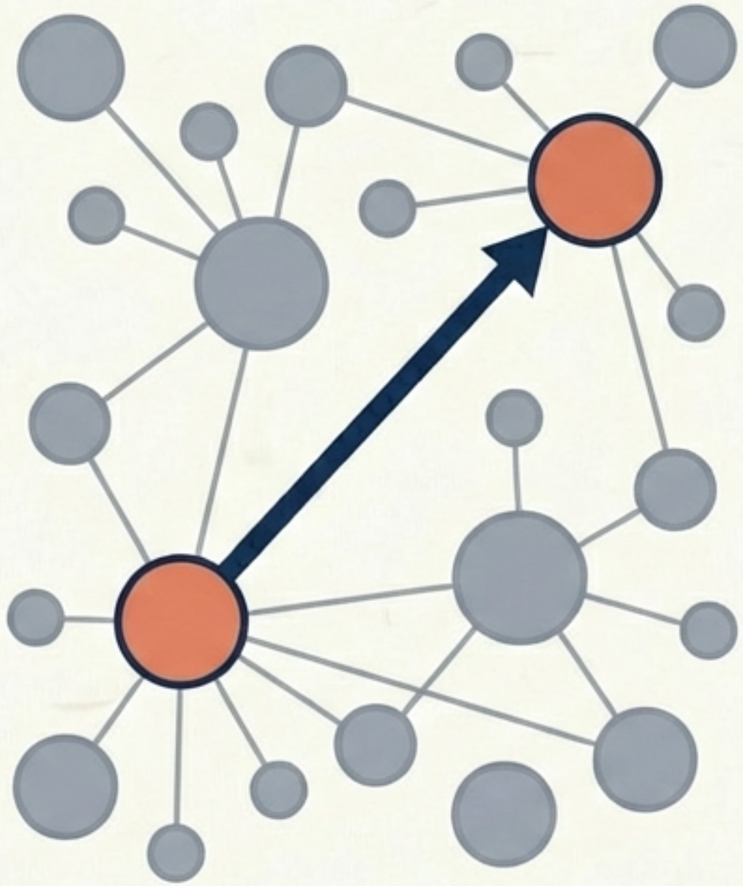


アウトプット

これらを掛け合わせ、会議で提起すべき
「議題候補」と「発言素材」を事前に
用意します。

NotebookLM

Step 3: 関係構築のターゲットを絞り、具体的な提案を行う



ターゲティング

漫然と名刺交換をするのではなく、自社の課題解決に必要な連携先（特定の行政担当者や他事業所のキーマン）を見極め、意図的に関係を構築します。

議題への具体提案

事前準備した素材をもとに、自社の課題を「地域の課題」として昇華させ、解決策に向けた建設的な提案を行います。



NotebookLM

Step 4: 属人化を排除し、重要情報を組織全体で共有する

個人の頭の中に情報を留めず、事業所の資産へと変換します。

定例での共有会

社内会議のアジェンダに「協議会報告」を必ず組み込む。

対応担当のアサイン

「誰が」「いつまでに」「何を」実務に落とし込むか、アクションプランと担当者を明確に決定します。



NotebookLM

Step 5: アクションを追跡し、支援改善への反映状況を評価する

やりっぱなしを防ぐため、共有されたタスクの進捗をトラッキングします。



この評価結果を、次回の参画目的（Step 1）のアップデートへと繋げます。

NotebookLM



事例：実装工程の導入で地域対応力が向上した「AV事業所」

Before

導入前の課題

協議会参加の成果が社内で全く見えず、形骸化していた。

Action

実施内容（アクション）

- 「参画目的シート」の導入（事前準備の徹底）
- 参加後共有会の定例化（属人化の排除）
- 反映タスクの管理（実行の追跡）

After

導入後の変化

- 連携先からの紹介件数が増加。
- 地域課題に対する事業所の対応速度が飛躍的に向上。

成功要因: 参加後の「実装工程」を明確なプロセスとして組み込んだこと。

NotebookLM

協議会参画における3つの「よくある失敗」とその回避策

失敗パターン1：出席自体を成果とする（結果：実装が進まない。）

✓ 回避策：「目的設定」と「実務への反映」をセットで管理する。

失敗パターン2：参加者任せにする（結果：情報が属人化し、組織のノウハウにならない。）

✓ 回避策：参加後の共有ルール・フォーマットを固定化する。

失敗パターン3：効果評価をしない（結果：継続する意義が不明瞭になる。）

✓ 回避策：成果を可視化する「KPI運用」を導入する。

NotebookLM

運用を見える化し、継続的な改善を促す「KPIダッシュボード」

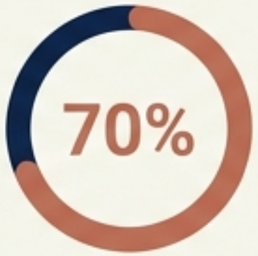


連携創出件数

定義：新規連携先の創出件数

目標値：前期比改善

計測頻度：半期



情報反映率

定義：持ち帰り情報の実務反映割合

目標値：70%以上

計測頻度：四半期



共有実施率

定義：参加後共有会の実施割合

目標値：100%

計測頻度：月次

NotebookLM

現場ですぐに使える監査・品質チェックリスト

- [ ] 参画目的が明確に定義され、優先順位がついているか？
- [ ] 地域のデータと自社の課題を整理した事前準備資料があるか？
- [ ] 参加後、社内で情報展開するための共有記録（議事録等）があるか？
- [ ] 持ち帰った情報を実務に落とし込む「反映タスク」が管理されているか？
- [ ] 連携件数や反映率などの「効果評価」が定期的に実施されているか？

NotebookLM

地域連携の実効化は、地域に開かれた事業運営の要である

協議会への参画は、施設の孤立を防ぎ、地域福祉のハブとなるための最も重要な手段です。
「目的設定から評価までのサイクル」を回し、連携を強固なものにしましょう。

参照すべき法令・ガイドライン

- 地域自立支援協議会運用資料
- 障害者総合支援法
- 地域連携関連通知

NotebookLM